

# 我がふるさと・わが母校

第70回



小千谷市立 小千谷小学校

## 小千谷小学校 校歌



- 一 東の空にそびえたつ  
八海山のけだかさを  
あしたに夕にあおぎみて  
きぼうはむねにのびてゆく  
われらの小千谷小学校
- 二 信濃の流れさわやかに  
心をみがく若き日よ  
おどるは銀の魚のむれ  
手をとり助け学びゆく  
われらの小千谷小学校
- 三 はぐくむ庭はかおりさく  
むとせのさちをたたえつつ  
ふるさと楽し歌えみな  
光をにない進み行く  
われらの小千谷小学校

## 生生発展する

### 小千谷小学校

校長 新保哲衛



小千谷小学校は、明治元年十月一日、柏崎県知事の認可を得て創立された日本一歴史のある学校です。児童九百八十名、学級数三十三の県下有数の大規模校です。教育目標「心をみがく」は、創設者・山本比呂伎翁の教育理念「敬（つつし）みて五教を敷いて寛に在れ」（人間として常に守り行すべき道を広く示し、それを徐々に教える）を踏まえたものです。

小千谷小学校は、創立以来、地域住民の厚い思いに支えられてたくさんの実績を重ね、生生発展してまいりました。数万人を超える卒業生、地域の中核校としての業務遂行、学校を核とした学びの共同体づくり、近くは、中越大震災の避難所として市民の生活を守り絆を深める場となったこと等々。平成二十二年度は、谷小の長い沿革の中でも特筆すべき年でした。それは、長年の念願だった校舎全面改築が実現し、最新の設備を備えた学校に生まれ

変わったからです。

十一月三日に竣工式が挙行されました。子どもたちは盛大で厳粛な式典に参加し、貴重な経験をすることができました。特に、児童喜びの言葉、太田神楽と豊年獅子舞、そして全員合唱を披露し、参加者に高く評価いただいたことは、一生の思い出になったものと思います。

昨年度は、校舎建築が進む中で新しく始まることへの感動と期待を抱いた一年でした。同時に、旧校舎の解体を通して役割を終えて無くなるものへの惜別の思いと感謝の気持ちを胸に刻む一年でもありました。教育目標「心をみがく」の下で学ぶ子どもたちにとって、またとない機会であり、大きく成長することができた年でありました。

四月からは新校舎での学校生活です。改築の六つの基本コンセプトを事に具現した校舎で、快適で充実した毎日を送らせていただいております。将来の小千谷を担う子どもたちの成長を願って大事業を実現してくださった地域の皆様をはじめ、関係各位に心より感謝いたします。

皆様の思いを受け止め、日本一歴史と伝統のある小千谷小学校で、興学の伝統と先人の努力に学び、新たな谷小の歴史を刻んでいきたいと思っております。

## 小千谷市の紹介

小千谷市の歴史は、信濃川の流  
れに沿った「大平遺跡」や「三仏  
生遺跡」などにそのあけぼのを認  
めることができます。

小千谷の集落が成立した年代は  
明らかではありませんが、魚沼神  
社の創建は「上古」であり、五智  
院は奈良時代初期に建立されたと  
言われています。また、「延喜式」  
には「越後布」の名があり、麻を  
原料とした織物が生産されていた  
ことがわかります。江戸時代には、  
この麻織物に改良を加えて「小千  
谷縮」が作られました。そのため、  
生産地や集散地として繁栄し、江  
戸や上方との交通が盛んとなり、  
文化も大きく発展しました。

明治初年には、戊辰戦争の戦場  
となりましたが、戦禍による大き  
な被害はありませんでした。その  
戦いの中にあつて教育の大切さを  
感じ取った篤志家により我が国最  
初の公立学校が設立されました。  
明治二十二年に町制を置き、小千  
谷町が生まれました。明治から昭  
和にかけて魚沼線・上越線・国  
道・県道が開通し、交通はさらに  
発展してきました。その後、昭和  
二十九年に市制がしかれ、さらに、  
市域が拡大し、今日の小千谷市と

なりました。産業面では、伝統的  
な織物・礼紙をはじめ、機械工業・  
米菓製造などが盛んになり、小千  
谷の経済を支えてきました。

昭和六十年の上越新幹線の開  
業、関越自動車道の全線開通に伴  
う先端電子産業誘致、公共下水道  
事業や公共バイパス工事等、都市  
基盤整備も計画的に行つてきまし  
た。

また、住みよいまちづくりの一  
環として、「錦鯉の里」「ちぢみの  
里」「サンラック小千谷」「総合体  
育館」など生活に密着する施設の  
整備が進められてきました。一方、  
超高齢社会を迎え、少子化による  
児童生徒数の減少、若年労働者の  
雇用確保問題を抱えており、これ  
らに対応する施策の充実が求めら  
れています。同時に平成十六年十  
月二十三日に発生した中越大震災  
に伴う復旧、復興を基盤とした街  
づくりや教育環境整備も進められ  
てきました。こうした状況の中で  
「小千谷市民のねがい」を基本理  
念としながら、都市像を「創造、  
伝統、自然が織りなす誇りあるま  
ち おぢや」とし、震災を乗り越え、  
市民と行政が協働で、緑豊か  
な自然と独特な文化及び伝統を生  
かし、小千谷らしい個性のあるま  
ちづくりを目指しています。「小  
千谷市の学校教育」より

## 小千谷小学校のあゆみ

◇慶応四年八月  
山本比呂伎が柏崎県知事に小学  
校を建ててほしいと手紙を出す。



山本比呂伎

◇明治元年十月一日

戊辰の戦雲未だ去りやらぬ時、  
郷土の先覚者、山本比呂伎氏が小  
千谷村五智院の一部を借館、柏崎



明治元年 五智院にて開校

県知事の認可を得て開学した。  
小千谷校・振徳館・小千谷学館  
と称した。

昭和四十二年十月

文部省教科書調査官

目崎徳衛氏

「小千谷小学校が公立学校として日本一古い歴史を持つ学校であることは、諸調査より厳然たる事実である。それはまさに栄光ある歴史である。世界最高の就学率を誇る日本の小学校教育の出発点は、わが小千谷市にあったのだ。しかし、歴史はその古さを喜ぶだけではないというものではない。そういう古い歴史に対しては、さかしくない未来をつくることは、現在生きているものの責任である。美しい自然と温かい人に恵まれた小千谷の人々は、必ずやこの期待に応えてくれるに違いない」

小千谷小学校編

「百年の沿革」より

◇明治十一年十月四日

小千谷市稲荷町に校舎を建てる。

◇明治二十年四月

尋常科小千谷小学校と名前を  
変える。

◇明治四十二年一月一日

西脇清三郎氏の寄付により新校

舎ができる。

◇大正十三年四月一日

男子部と女子部を合併する。

◇昭和十六年四月

小千谷国民学校と名前を変える。

◇昭和二十九年三月十日

小千谷市立小千谷小学校となる。

◇昭和三十一年四月一日

千谷川小学校を統合する。

◇昭和三十三年四月一日

桜町・時水・山口の三小学校を統合する。

地獄谷に冬期分校を開く。

◇昭和三十九年三月三十日

前校舎が完成する。



昭和39年 前校舎

◇平成十六年四月一日

上片貝小学校を統合する。

◇平成二十一年四月一日

山谷小学校を統合する。

◇平成二十二年四月一日

新校舎が完成する。

◇平成二十二年十一月三日

校舎改築竣工記念式典が実施される。



平成22年 新校舎竣工記念式典

### 新校舎竣工に寄せて

新しい校舎で、来賓、小千谷市教育委員会、竣工記念事業実行委員会、児童、職員等約千五百人が東体育館に会し、竣工記念式典が盛大に執り行われました。

え、新たな歴史を刻み始めた小千谷小学校。昨年、旧校舎の窓から、

どんな新校舎ができていく様子が見えました。小千谷の人たちの

思いや願いがたくさん詰まった校舎であることを知り、気持ちを新

たにしています。私たちのために新校舎をつくってくださった大勢

の方に感謝の気持ちを込めて、新校舎の素晴らしいところを紹介し

ます。

一つ目はとても広い児童玄関で

す。二つ目は中庭です。毎日、鬼

ごっこをしています。三つ目は明

るくて気持ちのよいベランダで

す。新しい容器のおかげで、食

るときまで温かい給食をいつもも

りもり食べています。音楽室は三

つ、理科室は二つあります。使い

やすくして便利な凶工室や家庭科

室、調理室があります。集会室は

学年全員が入ってもゆったりして

いて、とても便利です。

わたしたちは、この校舎を大切に

に使い、谷小の伝統とともにこの

新校舎を守っていきます。

「ありがとう新校舎！」

### 心と交流の拠点

長岡交響楽団指揮者 星野 勝彦

谷小を卒業し、すでに二十年に

なります。再び思い出深い母校の

お世話になろうとは思ってもよ

ず、竣工式で指揮をするという機

会をいただき大変感謝しており

ます。また同時に少しだけ恩返し

ができたのではないかと、小さな安

堵感を得ています。

さて、小千谷小学校が日本一の

歴史を持ち県下でも最大級の学校

であることは、卒業生を始め周知

のことです。これにふさわしい竣

工式が盛大に行われ、谷小が地域

の教育において「中心的役割」を

果たしている証を堂々と示したと

言えるでしょう。

今後も谷小は卒業生の心の拠所

であり続けます。また地域の方々

にとつて、よりよい交流の場とな

るよう願っております。

### はじめまして新校舎

一年五組 高野 葉那

私の好きな場所は、ピロティで

す。一番のお気に入りは一輪車

です。乗れるように勇氣を出して頑

張っています。ピロティには動物

小屋もあります。六わのウサギも

います。みんなでウサギと遊ぶの

も楽しいです。

### 児童喜びの言葉

百四十三年目の開校記念日を迎

## 特色ある教育

### ◎学校ボランティア制度

本校では平成七年から「学校を核とした学び合う共同体作り」を目指し、保護者、地域住民の授業への参加を得てきました。平成十二年にボランティアコーディネーターを中心とする体制として整えられ学校の生涯学習部と連携しながら、組織的な活動を展開しています。

ボランティアコーディネーターが毎月定例会を開き、学校との連絡調整、ボランティアの人選や配置とタイム細やかに対応してくれています。平成二十一年度は、約三百件に五百三十六人が参加し、授業への参画のほか、ボランティア主催のお話会やミニコンサートの充実、図書館整備、校内巡視、授業補助、クラブ活動の補助など、年々新しい取組が増え、地域の「学校を核とした学び合う共同体」としての広がりをみせています。

こうした取組の中で、子どもは学ぶ意欲を高め、次の学習を楽しみにしたり、「○○さんみたいになりたい。」と新たな目標をもって学習に臨んだりするようにになりました。



ボランティアによる自主活動「お話し会」

教師は、学校ボランティアとともに授業を創り上げることを通して、授業が豊かになることを学び、積極的に授業改善に生かそうとするようになりました。

一方ボランティアは、知識や技能、生き方が授業に役立てられ、子どもたちが生き生きと学ぶ姿を目の当たりにし、「子どもの言葉

や行動がとても嬉しかった。」「子どもと一緒に活動できて楽しかった。またやりたい。」と意欲を高めています。「地域の子どもは自分たちで育てる。」という意識が高まり、ボランティア同士が絆を強め、積極的に学校の教育活動にかかわり、子どもたちの教育環境をより充実させています。

文責 教頭 金子明子



ミシン授業のボランティア

### ◆その他「協力的だった方(敬称略)」

小千谷市立小千谷小学校

教頭 梅田 勝

小千谷市立教育委員会 学校教育課

課長 渡辺 辰男

小千谷市長 谷井 靖夫

商工観光課

課長 竹田幸雄

### 小説家・田中志津生誕の地



田中志津さんは、ここ小千谷市に生まれ、小学校四年生まで通学したが、父上が県の官吏であったため、新潟市へ移住。現在九十四歳になるが、明治四十二年一月一日の新校舎ができた時には第七回生位に在籍していたことになる。雪降る時には蓑笠を着て、歩くたびに雪道でカサカサと鳴った想い出がある。

豪雪地帯の小千谷は約半年は雪に埋もれた生活で、五月に入ると雪を割って露の臺が黄色い花を咲かせ、遅い春が訪れる。

小説「信濃川」や「遠い海鳴りの町」「佐渡金銀山を彩った人々」の佐渡・相川の作品は、田中さんの女学校時代、その父君が新潟県庁に主席属として転勤した頃を背景にしている。

此処にも「佐渡金銀山を彩った人々」の記念碑があるが、このたび船岡公園に「田中志津生誕之碑」が建立されたことは感慨深いことである。

(取材担当)

広報委員 本間 壯平)

# 地区県人会・郷人会だより

## 東京板倉会「第二十三回総会と懇親の集い」開催

◎ 清水 忠志 会長

秋晴れの上野、平成二十二年十一月二十八日(日)東京新潟県人会館において、恒例の「第二十三回総会と懇親の集い」を開催。

◎ 第一部総会では小林重夫副会長兼会計担当の司会。

清水忠志会長より、遠路お運び戴いたご来賓ならびに会員各位に感謝の言葉を述べられた。

東京板倉会の活動は、事務局長市村喜幸より平成二十一年度の経過とこの六月に行われた第四回ふるさと



東京板倉会第23回総会と懇親の集い集合写真  
'10.11.28 於新潟県人会館正面

訪問と交流の集いについて報告、会計監査は中嶋巡会計監事からの報告順調に議事進行する。ご来賓の祝辞は、東京新潟県人会事務局長佐藤暢男様から、上越市板倉総合事務所長宮澤誠一様。市議会議員田中吉男様、板倉まちづくり振興会長関間輝一様からは、ふるさとの近況をお話戴いた。

◎ 第二部懇親会はふるさと上越ネットワーク会長和久井博様による乾杯の音頭で始まる。司会から「会場に『板倉特産品コーナー』が設置されて居ます。懐かしい一品のお買い上げを」と声が流れる。アトラクションはふるさとの民話を素材に紙芝居、「寺野玉手箱の会」池田和子さんの名調子。「ああ風説の五百年、英雄上杉謙信から今に」企画構成吟。続いて人気歌手高城みゆき歌謡ショー、会員ご自慢のカラオケ大会大いに盛り上がる中、増村紀願問の中締めで次回を約して散会した。

(事務局長 市村 喜幸 記)

## 「東京魚沼郷人連合会」総会 開催

ピックアップ

「東京魚沼郷人連合会」(会長 高橋進)は、十月二十八日上野・精養軒で総会を開催した。

ふるさと魚沼市からは、大平悦子魚沼市長、志田アケミ市長公室次長も新幹線を利用して遠路かけつけてくれた。「東京魚沼郷人連合会」は、平成十六年町村合併により魚沼市が誕生したのを契機に、東京堀之内会、東京小出会、東京守門会、東京湯之谷会、東京広神会の各郷人会が横のつながりを更に深めようと組織した会である。



当日参加された皆さん

毎年、秋に総会を開催しており、今年で六回目を迎えた。当日は、あいにくの雨模様だったが、魚沼出身の四十五名が集い、田舎弁丸出しのなつか

しい会話が会場にあふれた。大平市長からはふるさとの情報が伝えられ、「くまやイノシシが毎日のように出没している。今朝も小出駅近くの山にカモシカが出た」とのお話があり、夏の猛暑でどんぐりなどのエサが少なく、野生の動物が人里に下りて来るようになったとのことである。

総会では、各郷人会から近況や活動報告が行われた。それぞれの郷人会は、会員の減少、役員参加などへの呼びかけをどうするか共通した課題をかかえているようだ。

東京広神会の佐藤永久会長は、秋の叙勲で瑞宝双光章を受賞されるといふ報告があり、皆さんから心のこもったお祝いの言葉がおくられた。二部の懇親会では、ハーモニカの独奏、舞踊、カラオケ、ものまねなど、次々とかくし芸が披露され、にぎやかな一時を過ごし親睦を深める良い機会となった。

(東京広神会 事務局長 櫻井 武光 記)

## 銀座で叙勲祝賀会開催

東京広神会々長の佐藤永久さんが平成二十二年秋の叙勲で「瑞宝双光章」を授与され、その祝賀会が開かれました。

佐藤さんの授賞理由は、永年警視庁に勤務した危険業務功労で、連合赤軍の浅間山荘立てこもり事件の現場にもおられたという武勇伝の持主。

今回のお祝いの会は、佐藤さんが県人会の総務委員でもあるところから春日寛副会長を発起人代表として県人会・東京広神会の関係有志が呼びかけて銀座（スターホール）に会場をセッティング、昨年十一月二十六日夕刻に開催となりました。

会は、同じ総務委員の橋本寛二さん（東京寺泊会々長）の司会で進められ、ご来賓の小林保廣県人会副会長をはじめ広神会の和田尚顧問、東京堀之内会の高橋進会長等々の祝辞があり、花束（県人会・広神会有志）やお祝いの額（高橋進さん自筆）などの贈呈があつて盛り上りました。

佐藤永久さんからは「今後とも健

康に留意し、この受賞のよろこびを忘れずにこれからも頑張ります」と謝辞が述べられました。 「すべては奥さんの内助の功あつてのこと」という場内の声が高く、これには佐藤さんも一言もない様子でした。

この後、歌手浜砂伴海さんの歌唱「慕情」等が披露され、続いて歌自慢の方々の飛び入りでなごやかな雰囲気になつた。窓外には銀座四丁目の和光の時計が目の前で、一緒に祝福してくれるようでした。

祝宴の締めは川村副会長から頂戴して、ラストは「ふるさと」の全員合唱。銀座の街に師走が迫つておりました。

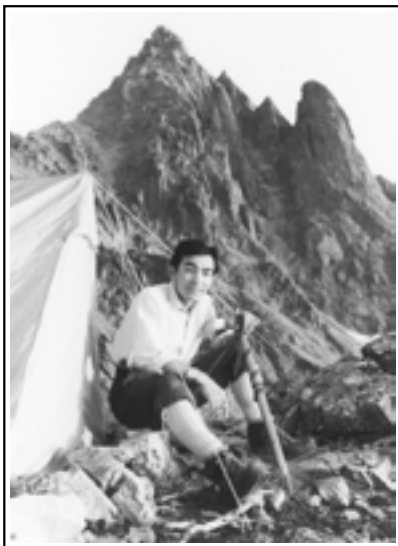
（広報委員・広神会副会長

矢久保 篤司）



東京広神会会長 佐藤永久さん

## ●思い出写真館⑦●



槍ヶ岳をバックに

これは私が25歳の時、会社の同僚と2人で、北アルプス槍ヶ岳に登った時の1枚です。

槍ヶ岳には上高地からが一般的ですが、この時は北鎌尾根ルートを取りました。登山者がほとんど通らない難度の高いルートの為ゆっくりと山歩きが楽しめる、高度の岩登りを楽しめるため。

この写真は2800メートル地点で朝のスナップです。これから槍の頭を目指して岩壁の直登が始まります。

46年前の私です。

（東京松代会会長 柳 政直）

旧東蒲原郡の四町村（津川町、鹿瀬町、三川村、上川村）単位に郷人会が結成されています。その中の東京津川会の加藤喜七会長にご登場いただきました。

### 三代目に就任、六年目

東京津川会の発足は平成七年十月十七日、本年十月で十六年目になります。

加藤会長は平成十七年に三代目の会長に就任。昨年（平成二十二年）十五周年の記念のお祝いを実施されて任期満了で退任を、と考えておられたところを請われて再任、今年就任六年目に入っております。

会員は、設立時に三百五十名だったのが、現在は二百八十名（設立時の二十%減）と、会員の高齢化の影響を受けています。

しかし、会の活動は活発で、秋の総会・春の交流会にはふるさとの物産の即売会、秋のレクリエーション（小旅行）等を実施しています。

### 「東京阿賀町親睦会」スタート

「ふるさとへの熱い思いが実現——平成十七年四月一日、旧四町村が合併して阿賀町が発足しました。

これを機に、高齢化による会員の減少傾向と今後の阿賀町の厳しい財

政事情に対処していく必要性を痛感され、ふるさととの交流を促進するとともに、ふるさとを支援しようという加藤会長の熱い思いが、平成二十一年の第一回「東京阿賀町親睦会」（東京津川会が担当）の開催となりました。

### 四つの郷

二回目は、本年、東京三川会が担当して開催されます。

人会の総会  
はそれぞれ  
単独に開催  
しています  
が、こうし  
た四つの郷  
人会が一堂  
に結集して  
親睦会を重  
ねていけ

ば、最終的には一体となった東京阿賀町会の実現につながるのではないかと、加藤会長は夢を膨らましておられます。

### 「人との付き合いを大事に」を信条に

加藤会長の略歴をお伺いしたところ、昭和三十年に上京されて千葉の大学に入学。金属工学を学ばれてそのまま東京のアルミニウム製造の会



東京津川会  
会長 加藤 喜七さん

社へ就職。二つ目の会社不二サッシでは二十年に亘り勤務されました。会社では、大学の先輩や会社の役員に実力を認められ若くして役職に登用されたということです。その陰には新潟県人の特質の一つである努力をされたことも読み取れました。

### 定年を迎え、会社から再雇用のお誘いがあった時、今日まで支えてくれ、ふるさと津川で

一人暮らすお姉さんの介護に専念することを決意されてキツパリとお断りされたということもお伺いし、思いやりと優しいお人柄を感じました。今も月の半分以上は介護でふるさとに帰省されておられるということです。

こうした人生を歩んでおられることもあり、「人生訓は」との質問に、次の二つを挙げていただきました。

### 「非理法権天」

（意味は「人は天命のままに動き、天に逆らうことはできない『天道に従って行動すべきである』です。」）

（意味は「人は皆いい人ばかり、それを信じて勇気をもって事を成せば必ず良いことがある。いい付き合いをしなければいけないです。」）



平成21年11月22日 秋のレクリエーション(東京・高尾山)

この二つの言葉から「人との付き合いを大事に」を信条とし、これを大書して自宅の書斎に掲げ、日々眺めては心しておられるということです。

### 祈「ご健勝

恰幅のある堂々としたお姿にふさわしく、とても穏やかで温かみのあるお人柄に敬服しました。

大変にお元気に見える加藤会長ですが、以前、脳梗塞を患ったことがあり、その時には薬で治療されたそうです。したがって健康の維持には殊のほか留意されておられます。少なくとも大同団結となる東京阿賀町

会の誕生までは、四つの郷人会の先頭に立ってお元気で活躍されることを願ってペンを置きます。

（広報 石黒 勝夫 記）

# 市町村だより あれこれ

## 新潟県下の市町村広報その他から⑩

### 史上初、県勢二校甲子園へ

三月二十三日(水)から十二日間、甲子園球場で行われる第八十三回選抜高校野球大会の出場校に日本文理高校と県立佐渡高校が選出された。

二月号のこの欄にも「新潟県高校野球史上初の県勢二校のアベック出場」可能性あり…と伝えておいたが、本当にこれが実現した。

多分…と期待してはいたものの、この朗報には「やった!」と叫びた



帽子を投げ上げて喜ぶ文理高ナイン (写真提供:新潟日報)



悲願遂に成り笑顔が弾ける佐渡高ナイン (写真提供:新潟日報)

い心境だ。

何しろ、つい数年前までは、全国で一番甲子園には縁遠く、「出ると負け」…のレッテルさえも貼られていた本県であったから。

画期的であったのは、まだ記憶も新しい日本文理高校の快拳(一昨年

夏の甲子園で決勝に進出、惜敗感動の準優勝)だが、これが県勢全体のレベルアップを象徴する出来事であったことを昨年夏の明訓高校(8強入り)も見せてくれた。

すでに報道されているように、一般選抜の日本文理高校に対して佐渡高校の場合は、二十一世紀枠の選出である。これは、日頃困難な条件や状況にありながらそれを克服して地区大会で好成績を残した特色あるチーム(学校)の中から選ばれるもので、雪国の離島にありながら県大会準優勝の実績を残した佐渡高校が選出されたわけだ。(全国九校の候補校の中から三校)

日本文理高校(春夏を通じて県内最多の九回目の出場)の大井道夫監督は「二年前のイメージを失望に変えない戦いを…」と語り、佐渡高校の深井浩司監督は「感謝の気持ちで一生懸命頑張る」と初出場の感激を口にした。

組合わせ抽選は三月十五日(火)。島民の興奮は日一日と高まって行く。

### 県の人口大幅減

明るい話題の後、いささか気にな

るのはふるさと新潟県の大増人口減の傾向だ。

少子高齢化によって、新潟県に限らず全国的に人口の自然減が進みつつあるのは知られていることなのだが、新潟県の場合は、高齢化が全国平均より七・八年早く進んでいるということであり、昨年の国勢調査の集計(速報値)では、人口減少率が調査開始(一九二〇年)以来最大の2・3%となっている。

私たちが新年祝賀会や納涼大会などで歌っている県民歌には「県民二百五十万」の文言があるが、昨年十月一日現在の県人口は二百三十七万四千九百二十二人で、これは前回調査(二〇〇五年)と比べて五万六千五百三十七人の減少であり、ピーク時(一九九五年)の二百四十八万八千三百六十四人からはおよそ十一万三千人減ったことになる。

泉田知事は「近年では、社会減は縮小傾向にあるが、自然減が増加している」と述べているが、若者が進学や就職で県外に転出して行く社会減には一定の歯止めがかかっているというものの、これまでに流出した

出産適齢期の世代が多く、ますます県内人口の高齢化は進んで行くという流れである。

これには、都会に向かった若者の就職支援などによるUターンを図るとか、働き盛りで都会の働き場を失ったり、農業に魅力を感じている人が意外に多いという三十世代を中心に積極的に迎え入れる施策を推進する等、国と県とが一体となつての対策が急務となつている。

### 新潟西港に米輸出向け施設

TPP（環太平洋経済連携協定）は環太平洋パートナーシップ協定が「平成の開国」になるのか、日本を危うくするものにつながるのか、その議論がかまびすしい。

新潟県では、農業が立ち行かなくなつてしまつて反対する声が強いと聞いているが、一方では今こそ日本の米を海外、特に中国へ積極的に売り込んで行く絶好のチャンスだとする声もある。ここでその議論を展開するつもりはないが、中国への米の輸出拡大に向けて農林水産省がその整備を進めていることは間違いない。

その動きは、昨年十二月、筒井信

隆農水副大臣が農産物の輸出拡大を中国側と合意したことを受けたもので、その具体的な道筋

づくりが対中輸出に必要な登録薫蒸倉庫と指定精米工場の整備として進行中である。



新潟西港（写真提供：新潟日報）

昨年末に行われた薫蒸倉庫の募集には全国から三十社の応募があり、八社が選ばれたのだが、その中に新潟市西港の日本海倉庫が入つている。（ほかに小樽市、酒田市、静岡市、四日市市、舞鶴市、福山市、熊本市の七倉庫）

この後、検疫対象の病害虫調査が行われ、問題なければ正式に登録されることになり、新潟西港からの輸出ができることになる。このことは、課題となつてきた輸送コストの問題を解決してくれることにつながるわけだ。

農林水産省では更に今年度、精米工場を各地に整備して行くことになるが、県でも更なる環境整備を国に働きかけ、新潟からの輸出拡大につなげて行きたいと目論んでいる。

TPPは、米だけに関わるものでは勿論ないが、米どころ新潟としては、まずこの件において喫緊の判断、対応が迫られることになる。

### 佐渡の活性化へ「食の陣」

冒頭に掲げた佐渡高校の選抜初出場は島民、県民の祝福を受けるに十分な面白い話題だが、それに負けじと食の魅力でも佐渡をアピールしようという試みが「さど食の陣」として初開催される。

三月十九日(土)から二十一日(月)までの三日間と二十六日(土)、二十七日(日)の二日間、佐渡市真野の「いぶき21」に島内の自慢の食を勢揃いさせて島外からのお客さんも佐渡へ招き寄せ、佐渡おけさや鬼太鼓の歓迎で住民との交流を図って行くという意気込みである。



(写真提供：(社)佐渡観光協会)

関係者からアドバイスを受けた「佐渡観光戦略会議」が市内の観光関係者や商工会関係者による実行委員会を立ち上げ準備を進めているもので、ベニズワイガニや地鶏の焼き鳥、佐渡牛の焼き肉等々およそ二十店が出店するほか、五百円で買ったお猪口で清酒飲み放題とか、五百円の井で鍋三種食べ放題とかのサービス企画もあるらしい。問い合わせは実行委員会の〇二五九(二四)一九九五。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

さて、おしまいに一言。タイトル下の数字のように、本欄はちょうど一〇〇回目を迎えた。

二〇〇二年の十一月号から始まり、二十六回目までは前任の岡村三夫委員長が書かれ、その後を私(池田)が受け継いだ。当初は一頁だったが、それを市町村合併情報と抱き合わせて二頁とし、大合併が終った二〇〇六年四月号以降も現在の形(二頁)を守り、レギュラー化した。

一〇〇周年の年度末にちょうど一〇〇回目を終えたことに、多少の感慨を覚えている。

(広報 池田 孝一郎)